

公共施設マネジメントの必要性和 まちづくりのあり方

2017年12月23日
大阪学院大学 経済学部
和田 聡子

1

講演の概要

1. 公共施設マネジメントとは？
2. まちづくりから考える公共施設マネジメント
3. 「三田市らしさ」を活かした
公共施設マネジメントの取り組み

2

1. 公共施設マネジメントとは？

- 自治体において、国の成長と共に数多く建設されてきた**公共施設の過剰・老朽化問題**
- 今後の**人口推移、財政状況を考慮**しながら、従来の公共施設の管理運営を見直す必要性
- **市民の生活基盤・水準の維持**を前提にした「**適正**」かつ「**機能的**」な公共施設の取り組み

3

日本では、バブル経済崩壊の1990年代以降、「New Public Management」、いわば「**民間企業の経営理念・管理手法等**を活用した**行政・自治体改革**」の必要性が強調され始める。



安易な官民比較は注意すべきだが、「**コスト最小化と利益追求**」の視点は不可欠である。

4

政府は平成26年4月、自治体に対して公共施設等の全体状況を把握し、長期的な視点で「**公共施設等総合管理計画**」の策定を要請。



この計画の3つのポイントは、①**10年以上の長期計画**であること、②**インフラを含む全ての施設を対象**とすること、③**更新・統廃合・長寿命化**など管理の基本的考えを明記すること。

5

公共施設等の管理

- 長期的視点に立った老朽化対策の推進
- 適切な維持管理・修繕の実施
- トータルコストの縮減・平準化
- 計画の不断の見直し・充実

まちづくり

- PPP/PFIの活用
- 将来のまちづくりを見据えた検討
- 議会・住民との情報及び現状認識の共有

国土強靱化

- 計画的な点検・診断
- 修繕・更新の履歴の集積・蓄積
- 公共施設等の安全確保
- 耐震化の推進

出所：総務省ホームページ「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」の概要より抜粋。

6

公共施設の将来のあり方を考えるためには、
①**現状把握**としての客観的データ、②課題抽出に基づく**目標設定**、が必要である。



公共施設に関する**基本情報**、**利用状況**、**コスト状況**の3つの視点でとらえ、現状と課題を**市民に公開し**、**理解してもらう**ことが重要。

7

三田市においても平成27年11月に「**三田市公共施設白書**」、平成28年6月に「**三田市インフラ白書**」を作成した。



これら白書に基づいて、平成29年3月に「**三田市公共施設等総合管理計画**」が策定され、検討すべき課題を示している。

8

三田市総合計画の「めざすまち」の実現に向けた公共施設のあり方を模索する必要がある。



今後、市民と行政が個々の公共施設の方向性等について意見交換を行い、「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針」を決定していく。

9

本日のタウンミーティングこそが、まさに三田市の公共施設の今後のあり方について市民と行政が共に考えるスタートです！

10

2. まちづくりから考える公共施設マネジメント

- まちづくりの方向性と合致した公共施設のあり方をめざす必要性
- 各自治体において独自の特徴があるため、他市町村の事例がすべて合致するわけではない。
- 市民・行政・企業・大学・広域自治体の5つのアプローチを持つ。

11

従来、教育、文化、医療、介護・福祉等の多くの公共サービスがハコモノ(ハード)として提供されてきたが、今後はこれらハコモノの最適化を通じてサービスの高度化(ソフト)が問われている。



まちづくりと連動した公共施設のあり方を考えることが公共施設マネジメントである。

12

自治体が公共施設のあり方(統廃合・再配置・複合化・多機能化等)を策定する際、「**まちの将来像**」を同時に提示することで、市民が前向きに公共施設計画を受け止められる。



「まちの将来像」、**「市民アンケート調査」**をふまえながら**取り組むべき優先順位**をつける。

13

まちの将来に必要な機能を有する公共施設については、**官民連携**あるいは**民間委託**も含めて**適正規模、維持費用、複合化の可能性、等の検証**をおこなう。



公共施設マネジメントは、市民と行政が**「信頼・連携・協働」**の中で**実施**する必要がある。

14

<他市における公共施設再編の取り組み事例>

① 札幌市の小学校の統合・複合化事例

→都心部の4つの小学校の統合、および保育所と子育て支援総合センター、ミニ児童会館を一体化した複合施設。

→太陽光発電やグラウンドの全面芝生化など環境にも配慮。建物の外装材はメンテナンスに配慮した素材の採用し、平成16年に完成。

15

② 武蔵野市の多機能施設の事例

→図書館の移転拡充に際し、図書館機能、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援等の機能を持った複合施設。

→用地の約半分を都市計画公園として整備、建物についても、市民参加によるアイデアコンペや施設設計プロポーザル等を経て平成23年にオープン。

16

③京都市の中学校の複合・多機能化の事例

- 教育環境の向上を維持すると共に、敷地等の有効利用や財政負担軽減の観点により、P F I (民間資金活用)事業として学校施設と地域ニーズに対応した公共施設を高層・複合化。
- 中学校、保育所、高齢者福祉施設、さらには飲食・物販の商業施設も整備し、多世代が交流する環境として平成18年にオープン。

17

<公共施設マネジメントで考慮すべき3つの視点> ～ 他市の事例からの教訓～

- ①他市町村の事例はあくまでも参考であり、各自自治体の事情に合った工夫・応用が重要である。
- ②市民の価値観・ニーズの多様化により、個々の施設の必要性の有無にトレードオフが生じる。
- ③市民が主役となり、「共有財産」としての公共施設の価値の向上を考える。

18

「まちの将来像」に取り組んでいく
上で、**公共施設は市民の「共有
財産」**であり、**市民全体で管理
運営する認識が不可欠です！**

19

3. 「三田市らしさ」を活かした 公共施設マネジメントの取り組み

- **他市町村に比して約10歳若いアドバンテージ**
の有効活用
- 地域担当制の導入による**職員と市民の協働
の取り組み**と地域イニシアチブの発揮
- 大型産業団地「北摂三田テクノパーク」内の
立地企業や関西学院大学との産官学連携

20

<公共施設マネジメントの取り組みのポイント>

①地域・区域(コミュニティ)を取り巻く環境に対応した柔軟な取り組みの必要性。

→現状把握を随時おこなって、**フレキシビリティの高い施設設計**を行う。

②将来にわたり需要が高い公共施設の長寿命化。

→**優先順位の選定**と共に、耐用年数の目標設定、維持管理費の見直しと**予防保全の徹底**。

21

③**交通インフラ**を考慮した公共施設のあり方を考える。

④**自治体間ネットワークの構築**により、公共施設も広域連携・利用の視点で整備する発想。

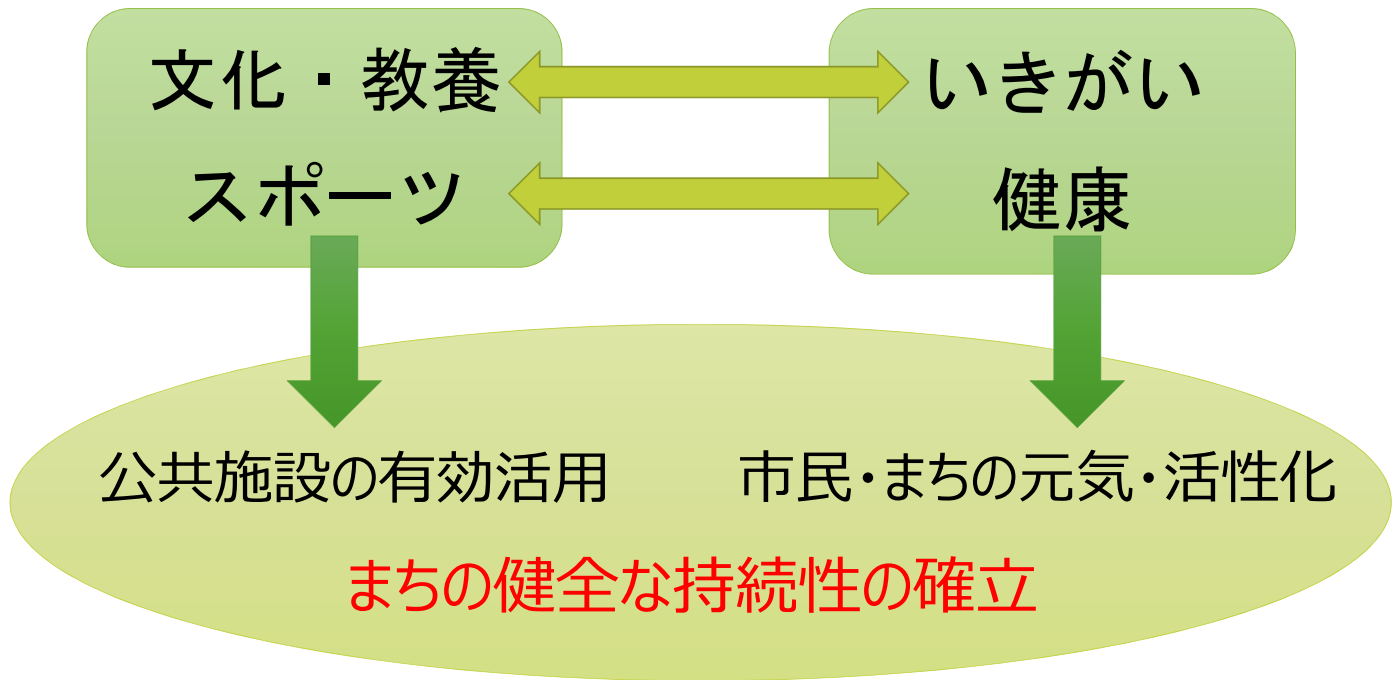
→近隣自治体と連携しながら、施設の統廃合を進めて市民サービスの維持に努める。

⑤世代によって公共施設の捉え方は異なる。

→**世代間のコミュニケーション**を通じて施設のあり方を一緒に考えていくことが重要。

22

<都市の持続性と公共施設マネジメントの関係>



23

若さと恵まれた環境でアドバンテージのある三田市は、**迅速な行動力**を活かすことで**望ましい公共施設をマネジメント**できるチャンスです！

24